

# 片側下顎全切除を行った6症例 の予後

関内どうぶつクリニック  
牛草貴博

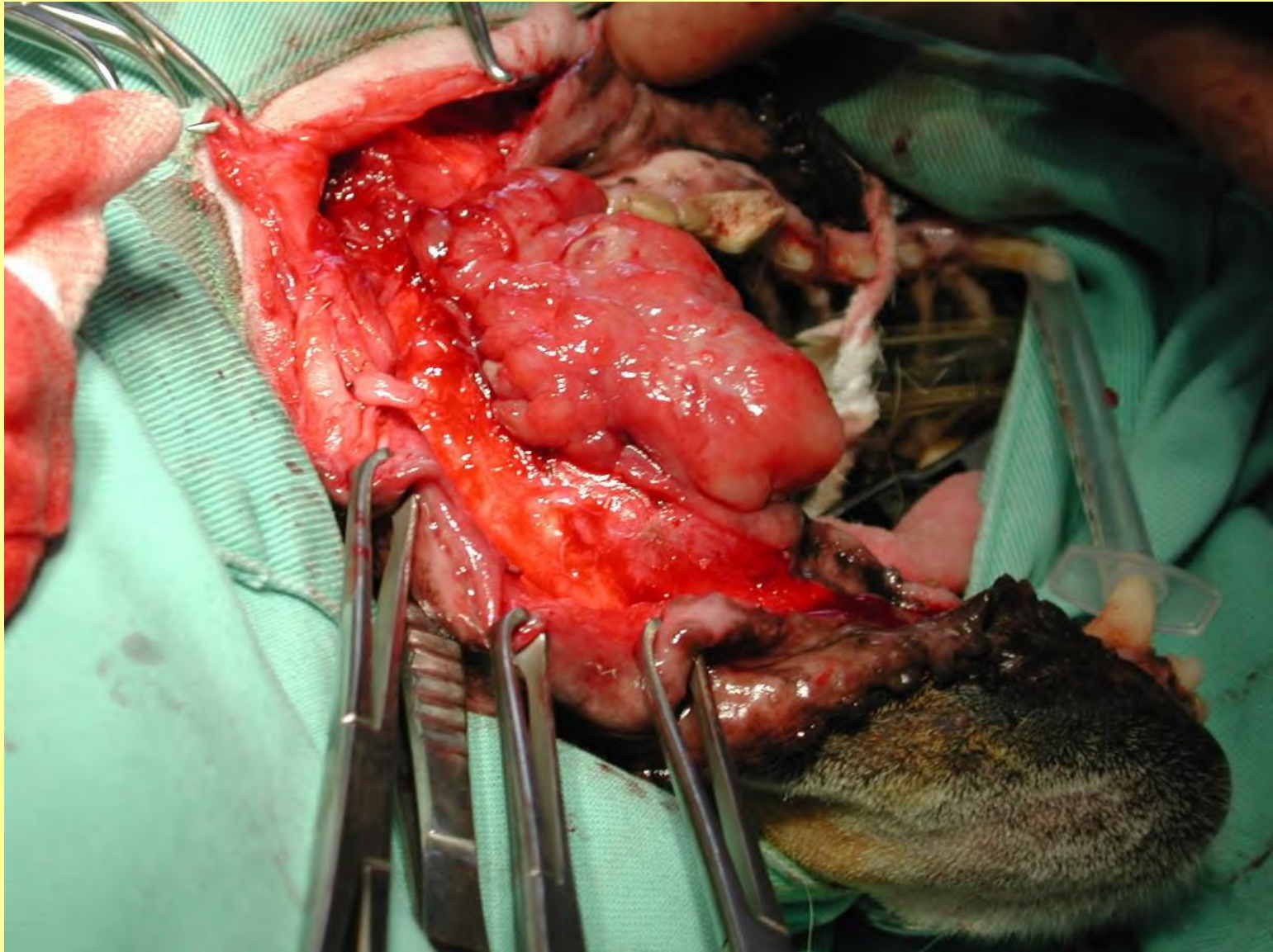
# 症例

- 犬5症例、猫1症例。
- 発症年齢は10-16歳。
- 犬種は柴系雑種2、四国犬1、ゴールデンレトリバー1、ポメラニアン1、雑種ネコ1。

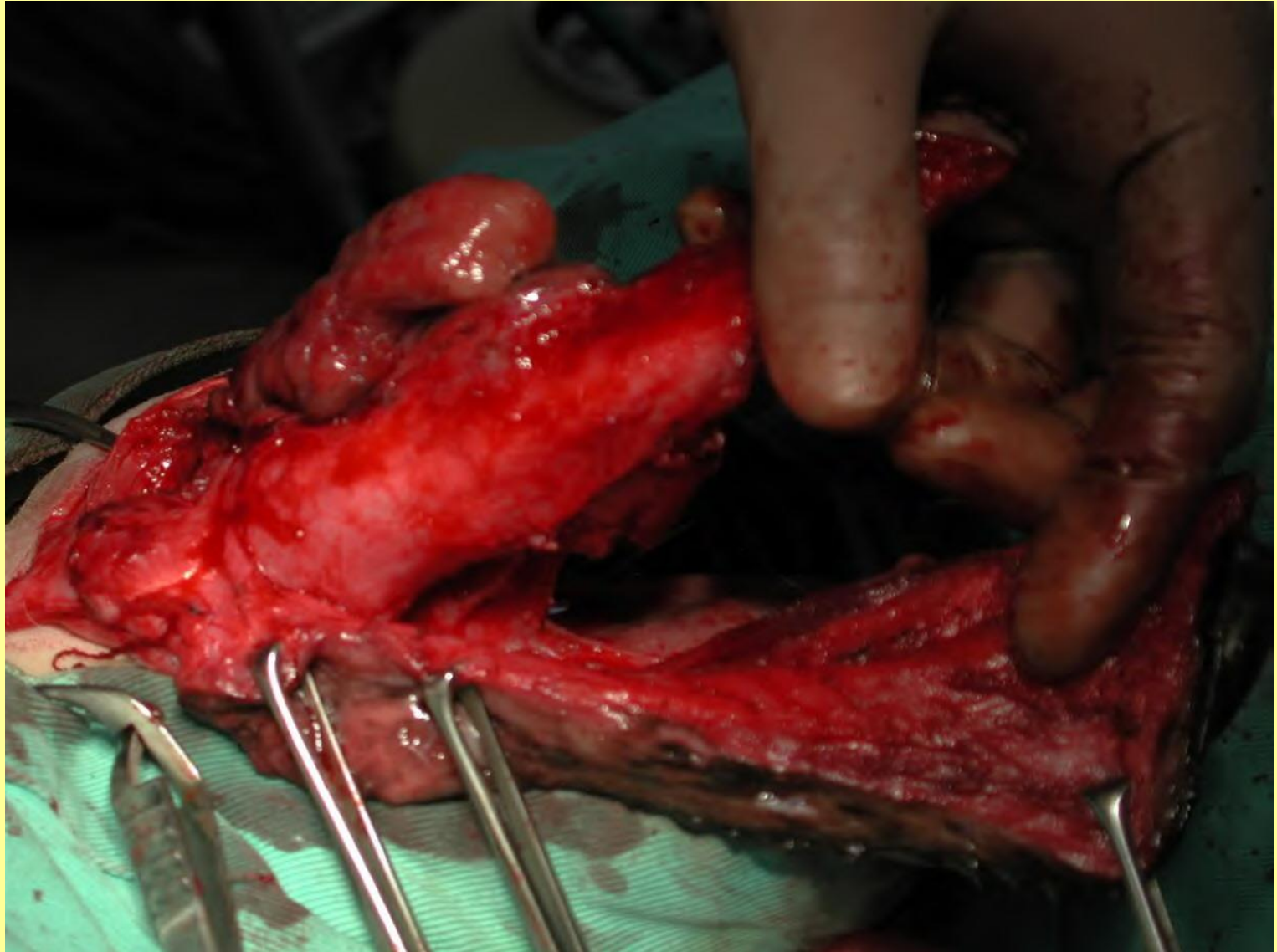
# 適応基準

- 腫瘍が多発しておらず孤立性であること。
- バイオプシーにより腫瘍のみの摘出では再発の危険率が高い腫瘍であり下顎切除によって根治治療が望めること。
- 転移率の高い腫瘍の可能性が高い場合には遠隔転移が認められないことおよび腫瘍の存在による摂食障害、出血など手術によって明らかにQOLの上昇が見込めること。
- 腫瘍の浸潤が正中線を越えずに辺縁のマージンが確保できること

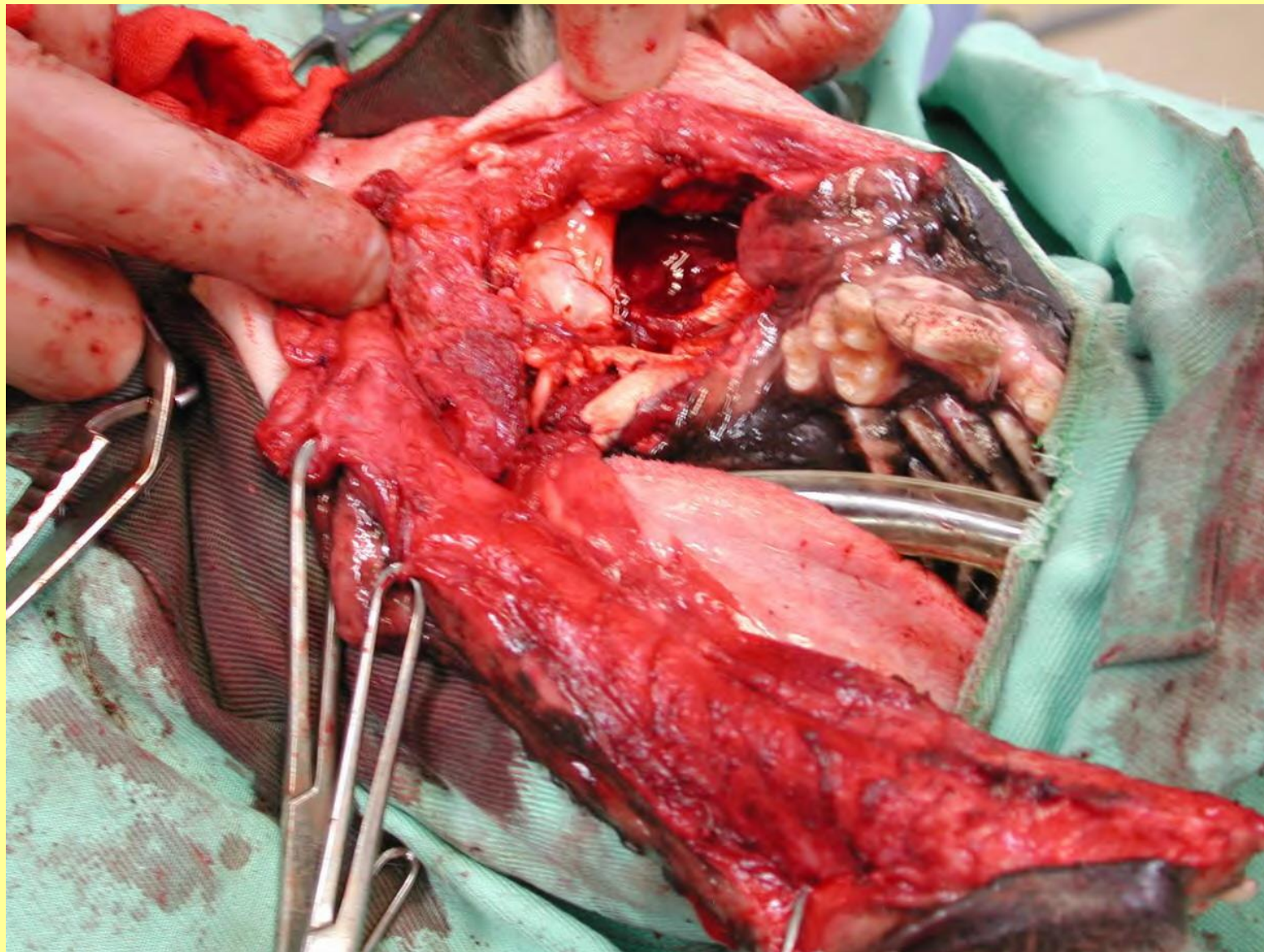
# 手術



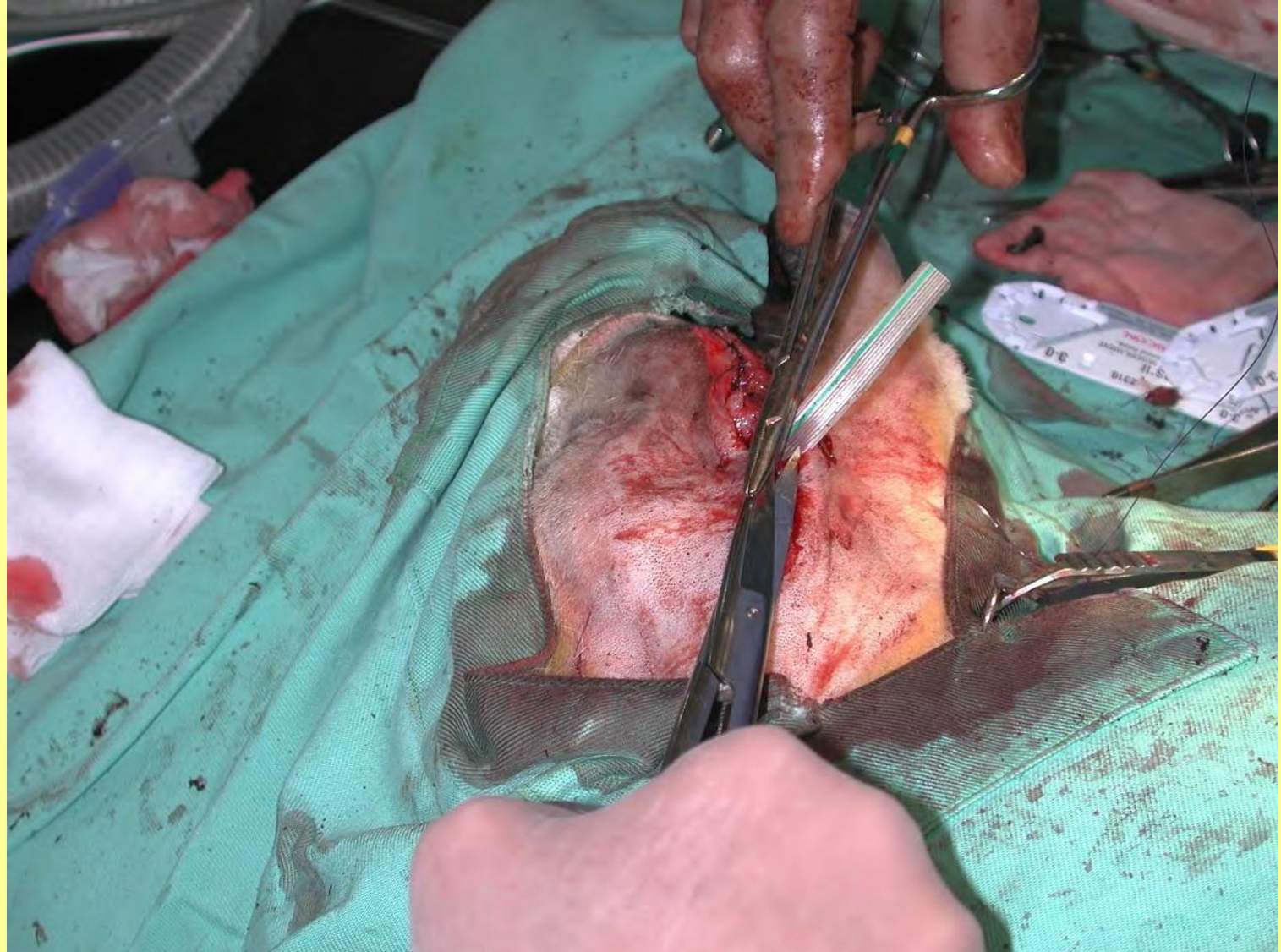
# 手術



# 手術



# 手術



# 術後1ヶ月





# 結果

## 症例1

種類：雑種犬

年齢：14歳

病理診断：棘細胞腫性歯肉腫

寛解期間 32ヶ月

# 結果

## 症例2

種類：雑種犬

年齢：14歳

病理診断：無色素性黒色腫

寛解期間 24ヶ月

# 結果

## 症例3

種類：四国犬

年齢：14歳

病理診断：扁平上皮癌

寛解期間 18ヶ月

# 結果

## 症例4

種類: ゴールデンレトリバー

年齢: 10歳

病理診断: 悪性黒色腫

寛解期間 8ヶ月

結果

症例5

種類：ポメラニアン

年齢：15歳

病理診断：血管肉腫

寛解期間 4ヶ月

# 結果

## 症例6

種類：雑種ネコ

年齢：14歳

病理診断：扁平上皮癌

寛解期間 4ヶ月

# 考察

- 採食はどの症例も介助なしに良好。
- 術前とほぼ変わらない生活を送れる。
- 術後に自己採食が可能になるまでの平均期間は7日間。
- 片側下顎切除術は根治目的だけに限らずQOLの向上にも寄与する。
- 腫瘍の腫大による機能障害に対しては非常に大きな効果を見せた。